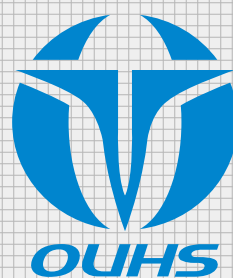


2018 大阪体育大学 アスリートハンドブック

OUHS Student-Athlete Handbook 2018



大阪体育大学

2018年4月発行



目次

序章

学長挨拶	01
スポーツ局 局長挨拶	02

第一章 大体大アスリート宣言

1 建学の精神および理念	03
2 草創期を支えた二人の偉人の志	04
3 スポーツ局のミッションおよびスポーツ強化方針	05
4 大体大アスリート宣言	06

第二章 スポーツパーソンシップと行動規範

1 スポーツパーソンシップ	07
2 行動規範	08

第三章 アスリートサポート

1 学業	11
2 スポーツ活動	12
3 キャリア	14

学長挨拶



大阪体育大学 学長
岩上 安孝

大阪体育大学は開学以来50年余に渡り、体育・スポーツを基軸とした教育・研究を推進し、多くの優れた人材を社会に輩出してきました。諸君の先輩達は、母校の運動クラブでの活動を通じて学んだ経験を生かし、さまざまな領域で活躍しています。

次代に向けこの動きをさらに加速させるべく、本学では教育、研究、拠点づくりを柱にした「大体大ビジョン2024」を策定し、その中の「拠点づくりビジョン」を具現化するプロジェクトとして2016年に「大体大DASH(Daitaidai Athlete Support & High Performance)」を立ち上げました。現在、各領域の専門家による研究、指導、サポートのメソッドを体系化し、優れた人材や設備・施設が整ったキャンパスにおいて、アスリートと指導者・スタッフへの各種サポートを提供すべく新たな挑戦に取り組んでいます。

一方、2020年東京五輪を控え、スポーツをめぐる国の動向も近年めまぐるしく変化しており、その変革はさらに加速することが予想されています。

とりわけ、見直しが図られた「第2期スポーツ基本計画」においては、「大学のスポーツ資源の活用」が課題として取り上げられ、改めて諸君が日々勤しむ運動クラブにおける活動の充実と発展、さらには「スポーツ」というコンテンツを活用した大学の地域や社会への貢献に関する具体的な施策が求められています。

このような学内外を取り巻く状況も踏まえ、本学はあらゆる人材や施設・設備を活用して、体育・スポーツ専門大学としての価値を高める活動を、これまで以上に強力に推し進めていきたいと考えています。そしてその中心となるのは、シンボリックな存在となる運動クラブ、そこで日々汗を流す君たち学生アスリートであることは間違いありません。

この「アスリートハンドブック」は、学生として、競技者として、社会の一員として、本学に係わるアスリート一人ひとりの自覚と責任を促すとともに、競技力・学力・人間力の向上につながる内容がまとめられています。皆さんのご活躍を心から期待しています。

スポーツ局 局長挨拶



大阪体育大学 スポーツ局局长
宍倉 保雄

アスリートとは、競技性のあるスポーツを成立させるために中心的な役割を果たす使命を持ち、スポーツを「みる」「する」「ささえる」全ての層から、その一挙手一投足が常に注目される社会的存在です。反面、そんな魅力的な存在であるからこそ、社会に活力を与え、多くの価値を創造する可能性を秘めた人物でもあります。

欧米の大学スポーツ界では、早くからその使命と可能性に着目。アメリカのNCAA (National Collegiate Athletic Association) やイギリスのBUCS (British Universities & Colleges Sport Limited) といった団体が、学生スポーツとアスリートの指針を定め、それを管理する大学横断的な組織として重要な役割を果たしています。

我が国においてもスポーツ庁を中心として、大学のスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理・統括する部局の設置や人材の配置を支援し、大学スポーツの活性化や大学スポーツを通じた大学全体の振興を図る「大学スポーツ振興の推進事業」が始まりました。本学はスポーツ庁よりその推進事業大学として選定され、学内に「スポーツ局」を設けて学生アスリートを取り巻く環境の整備を推進しています。

この「大阪体育大学 アスリートハンドブック」は、スポーツ局が本学の学生を牽引するアスリートとして、どんな姿勢をもって競技に臨むべきか、どんな意識で学生生活を送るべきか、を明文化したものです。また、本学で競技生活に取り組む全てのアスリートが守るべき指針であり、ルールブックであります。

これを有効に活用することで、本学のアスリートが今以上に大きな成果をもたらし、社会に貢献する人材となることが出来ます。競技や練習、学業、将来設計に迷いが生じたときには常にここに立ち返り、自身が進むべき道の方向を確認してください。必ずその答えを探することができる、心の拠り所として役に立つはずですよ。

第一章：大体大アスリート宣言

1 建学の精神および理念

本学は「不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する」を建学の精神に、1965年(昭和40年)、関西では初の体育大学として開学しました。

「智・徳・体を修める」とは、「体を入口にそこから知と徳の涵養を図る」という意味です。体育、スポーツの能力を高めたいという目的があれば、どうすれば体がうまく動くかという知の問題に遭遇します。そこで、スポーツ科学の知見を取り入れていくために「学ぶ」必要が生じます。さらにスポーツは他者との協働が不可欠であり、そこには徳の要素が必ず含まれます。このように体を動かすことを中心に学び、最終的には人間的な成長を遂げる、そうした人材を育て、社会に貢献することが本学の使命です。

また本学では、学生一人ひとりが目指す学士力を「大体大力」と定義しています。「内面化したスポーツ価値」「豊かな教養」「確かな専門性」の3つの力で構成され、教育、体育、スポーツ、そして健康の立場から、現代社会が抱えるさまざまな課題の解決に貢献できる力の修得を目指しています。

「内面化したスポーツ価値」とは、スポーツの道徳的規範であるフェアプレイやスポーツパーソンシップ、行動的規範である公正性・公共性、共感力、実行力、忍耐力、チームワークなどの力を意味します。これらはスポーツの世界にとどまらず、社会の一員として極めて大切な力です。

「豊かな教養」とは、基礎的な学力や、日本語および外国語でのコミュニケーション力、情報処理能力のほか、知識の活用能力、思考力、ひいては社会的・職業的な自立力などを含みます。また、体育と福祉が人や社会との関わりで成り立っていることを考えれば、他者に対する説明力、対話力も不可欠です。

「確かな専門性」とは、科学的な理論と技術に裏付けられて修得された、深い体系的な専門知識のことです。

本学学生は、通常教育課程に加えて、運動クラブ・サークル、ボランティア活動、インターンシップ、地域活動など、さまざまな機会を通じてこの「大体大力」を着実に修得し、建学の精神と体育・スポーツ・健康・福祉で社会の新たな価値創造に貢献してきた誇りを胸に、幸福で平和な社会づくりに貢献します。

2 草創期を支えた二人の偉人の志

建学の精神と並び、本学の理念の源流となっているのが、草創期を支えた二人の偉人の崇高な志です。

本学第二代学長の加藤橘夫先生は、我が国の体育学と体育学会の創立・発展に寄与された比類のない人物です。戦後、体育を大学の正課とするよう尽力し、日本体育学会の創立に加わって理事長、会長を務めました。さらに大阪府スポーツ審議会長、大阪市教育委員長などを歴任して大阪の教育界にも大きな足跡を残しています。1964年の東京五輪開催時には「国際スポーツ科学会議」を提唱するなど、世界的な舞台でもスポーツ科学の発展のために精力的な活動を展開しました。本学では運動施設の改善と充実、高性能な研究機器の導入に熱意を傾け、教育面では教員・指導者を育て輩出するのみならず、生産体育に関する知識を身につけるなど、新しい分野への挑戦も果敢に進めました。

大島鎌吉初代副学長は、1964年東京オリンピックで強化委員長・選手団団長を務め、1982年に日本人で初めてオリンピック平和賞を受賞した人物です。1965年、大阪体育大学に着任後、初代副学長として大学設置認可から入試、開学と多忙な中で、さまざまな問題が発生する困難な状況を打開するために尽力されました。特に「生産 体育」の分野を重視し、コース修了者が「衛生管理資格者」を取得できるよう労働省（現厚生労働省）に掛け合い、「新しい教育分野」を確立するなど、本学の礎を築きました。また「レクリエーション運動」「青少年育成運動」「みんなのスポーツ運動」「ユースキャンプの恒久化」「オリンピック平和運動」等、数多くの運動を提唱し、実践されたことや、国際的にも「ユースキャンプの恒久化」がオリンピック憲章（47条）に採択されたことなど、輝かしい功績を残しました。

加藤先生、大島先生の「体育・スポーツの力で幸福で平和な社会づくりを目指す」という高い志は、現代の学園に学ぶ私たちの進むべき確かな方向性として受け継がれています。

3 スポーツ局のミッションおよびスポーツ強化方針

(1) スポーツ局のミッション

本学には、運動クラブの横断的統括管理と、体育・スポーツ専門大学としてのブランド構築のための業務を包含し、教職員、教育、施設、地域交流・社会貢献、広報・PRといった学内の経営資源の効果的な運用と機能統合を図るための専門部局として「スポーツ局」があります。スポーツ局のミッションとして、次に掲げる事項の推進を図ります。

- ① 運動クラブやアスリートを統括し、その育成・強化・支援の充実と、安全で健全なスポーツ活動環境の整備を図る。
- ② 学生アスリートの修学、キャリア形成ならびに生活の支援を図り、社会で活躍できる人材育成に取り組む。
- ③ スポーツ科学に基づく実践研究の場との協働を図る。
- ④ 中高大連携を促進し、中長期的なスポーツ人材育成システムの構築を図る。
- ⑤ 運動クラブやアスリートを支援する指導者やスタッフの支援と資質の向上を図る。
- ⑥ 地域社会や広くスポーツ振興に寄与するスポーツ事業に取り組み、本学のブランド力の向上を図るとともに、その円滑な推進体制の構築と学内の連携協働の強化に取り組む。
- ⑦ スポーツ局の各施策の展開を通じて、スポーツ拠点の整備に取り組み、スポーツの社会における新たな価値創造をめざすシンクタンク機能の充実を図る。

(2) スポーツ強化方針

スポーツ局では、「競技力の向上を探究し、競技活動の強化・支援に関わる実践研究に積極的に取り組む」「修学、キャリア開発に積極的に取り組み、アスリートの模範となる規律ある日常生活と競技活動の両立に尽力する」「地域社会やスポーツ界の発展に資する諸活動に積極的に取り組む」という三つの基本事項に則って活動する運動クラブやアスリートを対象に、以下の強化方針を定め、活動環境と支援活動の充実を図ります。

- ① 国際大会等で活躍が期待されるアスリートについては、大体大DASHプロジェクトにより支援する。
- ② インターカレッジなどの全国的規模の大会で好成績が期待される運動クラブやアスリートについては、戦略的、かつ特別に強化する。
- ③ その他の運動クラブやアスリートについては、それぞれが設定した目標の達成を支援するとともに活動環境を整備する。
- ④ 運動クラブやアスリートの目標、計画、実績を毎年査定し、強化策や支援方法を検討する。その他、本学の運動クラブやアスリートの競技力向上の充実にあたって必要な事項を推進する。

4 大体大アスリート宣言

大阪体育大学に学ぶ全ての学生アスリートは、本学の建学の精神と草創期から受け継ぐ高い志、そして教育・体育・スポーツ・健康・福祉で社会に貢献してきた誇りを継承し、さらなる発展を追求することを誓い、ここに「大体大アスリート宣言」を制定します。

大体大アスリート宣言

- ① 大体大アスリートは、スポーツが人類の尊厳を重んずる平和な社会の形成に貢献するものであることを理解します。
- ② 大体大アスリートは、建学の精神に則り、智・徳・体の弛まぬ研鑽と社会奉仕の実践に努めます。
- ③ 大体大アスリートは、多くの先達が確立した大体大の継承者であることを自覚し、その発展に寄与します。
- ④ 大体大アスリートは、自己の目標を高く定め、その実現に向けた探究心を持ち続けます。
- ⑤ 大体大アスリートは、常に文武両道に努め、優れた教養と人格とを備えた競技者であることを心がけます。
- ⑥ 大体大アスリートは、スポーツが対戦相手や審判など他者が存在して成立していることを理解し、それを尊重します。
- ⑦ 大体大アスリートは、スポーツを通じた地域社会への貢献とは何かを考え、確かな行動に移します。
- ⑧ 大体大アスリートは、スポーツを通じた国際交流の実践を図ります。
- ⑨ 大体大アスリートは、母校の繁栄と発展に寄与するため、大学の広報活動へ積極的に参加・協力します。
- ⑩ 大体大アスリートは、応援してくれる人たちへの感謝を忘れずに、怠りのない準備と全力のパフォーマンスをもってそれに報います。

第二章：スポーツパーソンシップと行動規範

1 スポーツパーソンシップ

スポーツパーソンシップとは「アスリートが競技を通じて身につけるべき人格的な総合力」といえます。その根源となるのは、スポーツが競技として成立するために欠かすことができない「相手」「規則」「審判」を尊重(respect)することです。これらを大切に思うことが、自分が行うゲームそのものを尊重することになります。それが自分との戦いに克ち、成長し、自らに磨きをかけることにつながります。

自分の技術や心身を磨いて試合に臨み、規則を遵守し、審判の判断に従い、最善を尽くして相手と直面し、得られた結果を受け入れ、支えてくれた周囲に感謝するという、スポーツのあらゆる価値を大切に考えることが、スポーツパーソンであることの最大の意義となります。

そして、大体大アスリートは自身のパフォーマンスを競技として成立させるためのみならず、観る人を感動させ、社会に希望をもたらす存在として認知されるために、スポーツパーソンシップを修得し、実践することが求められます。

スポーツパーソンシップ

- ①ルールを厳守し、フェアプレイに徹する
- ②勝利に向けて正々堂々とした姿勢を保ち最善を尽くす
- ③対戦相手に敬意を払い、地位の慢心があれば改善する
- ④審判による裁定を謙虚に受け入れる
- ⑤結果を受け止め、次回の挑戦への糧とする
- ⑥自主性を持ち、自己の責任において状況判断を行う

2 行動規範

(1) 法令遵守

私たちは社会の一員として、国や自治体、競技団体などにより明文化された法律や条例、規則・規程はもとより、社会の倫理や道徳、公序良俗などと照らし合わせて当然守るべきすべての事柄について、遵守する義務があります。

万が一それに違反した場合には、法的、社会的な制裁を受け、アスリートや学生としての資格を剥奪される可能性もあります。これまで重ねた努力や、その末に得た実績、周囲からの信頼、尊敬、競技を通じて培った人間関係などを一瞬にして失うことになります。

特に遵守すべき法令

- 薬物：WADA規程／JADA規程／各競技団体のドーピング防止規程／覚せい剤取締法／麻薬及び向精神薬取締法 等
- アルコール：未成年者飲酒禁止法／刑法（傷害罪／現場助勢罪／強要罪） 等
- 喫煙：未成年者喫煙禁止法／路上喫煙禁止条例
- 賭博行為：刑法（賭博罪／常習賭博・賭博場開帳凶利罪）
- 交通ルール：道路交通法／自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律／刑法（業務上過失致死傷罪）
- 反社会的勢力との関わり：民事保全法、暴力団排除条例

(2) 倫理基準

自分が社会の一員であることを常に自覚し、たとえ法的には規定されていない事柄であっても、その行動規範の土台となる倫理基準から逸脱する行為を行ってはいけません。

スポーツには人々を幸福にし、社会を善い方向に導く力があります。しかしスポーツが本来持つ力を発揮するためには、アスリートとしてふさわしい「高潔さ」や「品位」を持ち合わせていることが前提となります。

遵守すべき倫理基準

- 正しい金銭感覚：浪費、借金、ギャンブル、不透明な金銭の授受などと一線を画す態度
- 学術的誠実さ：勉学・研究における不正（カンニング、文献の無断流用など）を憎む意識
- 約束の実行：一度約束したことを守るための努力
- 他者への敬意：相手にふさわしい言葉遣い、行動を常に心がける姿勢

(3) 学問の追求

大体大アスリートは、アスリートである以前に大阪体育大学の学生であり、その本分は学問の追求です。さらなる上の競技力を求めてスポーツ科学の知見を取り入れるために、また社会の一員としてその発展に貢献するために、学問による知識や教養の獲得は欠かすことができません。

また、競技生活の終焉後に迎える新たな人生に豊かさをもたらすためにも「学びに対する真摯な姿勢」は、学生時代に確立しておかなければなりません。

(4) 生活態度

規則正しい生活リズムや自己規律に基づく節度ある態度は、強いアスリートであるための最低条件であるのみならず、他者から信頼される人間として社会生活を営む上でのルールでもあります。

決められた時間を守る行動、効率的な時間のマネジメント、心身に良い影響をもたらす健康的な食事や睡眠の習慣、良好な人間関係を築くコミュニケーションや立ち居振る舞いなどを常に学び、実践する姿勢が求められます。

(5) 身だしなみ

大体大アスリートは、大学を象徴する学生として、学内・学外から注目される存在となります。そのため、「時間」「場所」「状況」に合わせた服装や、他人に不快感を与えないような身だしなみを維持することが求められます。遠征中の移動や、公式の場に出席する状況ではもちろんのこと、学内で過ごす時間であっても、その意識を持ち続けなければなりません。

(6) いじめ、ハラスメント、差別

スポーツ界のみならず、一般社会においていかなる「いじめ」「ハラスメント(いじめや嫌がらせ)」「差別」といった行為は許されません。性別、人種、出身、環境、年齢、心身の障がいなどに関する侮辱や嫌がらせとは無縁の存在であるべきです。

また、性的な内容に関わる不快な言動(セクシャルハラスメント)、指導的な立場にある人物からの暴力行為や自尊心を損なう言動(パワーハラスメント)に関しても敏感な感覚を持ち、それらの行為に遭遇した際には速やかにしかるべき部署への報告を行い、対処を求めなければなりません。

(7) コミュニケーションツールの扱い

メールやSNSなどのインターネットツールは、情報交換や情報発信を行う上で便利な手段ですが、不用意な発信や誤った使用、および不十分なセキュリティ対策は大きなトラブルの原因となります。一旦インターネット上に流れた情報を完全に消去することはほぼ不可能であり、また驚くほどの早さで拡散してしまいます。

そうなる自分自身はもとより、学校や部、関係者などの信頼を失墜させることにもなりかねません。自身の言動が社会から注目されるものであることを自覚し、節度を保った使用を心がけましょう。

(8) 社会貢献活動への積極的な参加

大体大アスリートが競技力向上に全力で取り組むことができるのは、これまで自分を育ててくれた社会や、現在大学が存在する地域からの多大なサポートがあるお陰です。

その事実に感謝し、培った技術や経験を社会に還元し、地域の教育や福祉の発展に貢献することを主体的に考える姿勢が求められます。

1 学業

文武両道の理念を実現させるために、競技力向上と同様の情熱を学修に注がなければなりません。

大学での学修は、自分の将来を考えて計画を立て、登録・履修しなければなりません。そのためには、本学の教育課程や履修登録・授業受講の注意、試験・成績評価・資格所得に関する事項など十分に理解しておく必要があります(学修に関する詳細は、別に配布される「履修要項」に記されていますので参照してください)。

学力が基準値に達していないアスリートに対しては、学修支援ための制度が用意されています。これらを積極的に活用し、自ら対処する姿勢を維持してください。

基礎学力あるいは学業成績が一定基準を満たさないアスリートに対して、次のような学業支援プログラムが用意されています。

大学で学ぶための基礎学力の充実支援

入学時に実施される基礎学力テストの結果が一定基準を満たしていない場合は、基礎学力の向上を目指した学習支援を受けることになります。

専門的学修に必要な学力支援

学業成績が一定基準を満たしていない場合は、専門的学修のための学修支援を受けることになります。

なお、未実施者に対しては本人、運動クラブ部長、指導者への指導やクラブ活動の制限などの措置が取られることもあります。

<学習支援室>

B号館4階B417、B416で主任およびチューターたちが指導を行います。

上記の支援対象者以外にも利用可能で、事前申し込みは原則不要です。

自習室としても利用できます。

2 スポーツ活動

(1) フィジカル面(Strengths & Conditioningルーム(以下S&Cルームとする)の活用)

<S&Cルーム>

S&Cルームは第三体育館1FおよびL号館1Fに設置されています。S&Cルームにはトレーニングマシン、フリーウエイトおよび有酸素系マシンを中心としたトレーニング機器を配置しています。また、希望する学生はスポーツ科学センターのストレングス&コンディショニング(Strengths & Conditioning; S&C)部門が競技向上やスポーツ障害の予防等を目的としたトレーニングプログラムの作成、S&Cルームにおけるトレーニング指導を受けることができます(所属するクラブの部長、監督の同意が必要です)。

開室時間

- 授業期間 (平日)10:30~20:00
(土曜日)10:00~17:30
- 授業期間外 (平日)10:00~17:30
(土曜日)10:00~17:00

※日程、時間によっては使用できない場合がありますのでS&Cルームにて予定を確認してください。

(2) メンタル面(スポーツ心理サポート室の活用)

<スポーツ心理サポート室>

心理サポートはおもにQ号館3階に設置されている学生相談室・スポーツカウンセリングルームにて行われます。競技の面に関わらず悩んでいることがあれば専門家(臨床心理士等)が相談に応じます。相談内容が外部に漏れることは一切ありません。

開室時間

- 月曜日10:00~15:00
- 火曜日10:00~15:00
- 水曜日10:00~17:00
- 木曜日10:00~13:00
- 金曜日10:00~13:00
- 土曜日10:00~13:00

(3) スポーツ傷害(予防・リハビリ)への対応(診療所・アスレチックトレーニングルーム(以下、ATルームとする)の活用)

<診療所>

診療所ではスポーツ外傷・障害から、日々の健康管理までをサポートします。スポーツ整形外科に加え、内科の診療も行っています。さらには「保険医療機関」の指定を受けることによって、保険証で誰でも診察を受けることができます。また、本学スポーツ科学センターと連携をとり、傷害の予防や早期発見、リハビリテーション・プログラムの作成と実行など、現場復帰まで完全にサポートする体制も確立しています。

開室時間

- 月曜日～金曜日 8:30～17:00
- 土曜日 8:30～13:30

※日程、時間によっては使用できない場合もありますので診療所にて予定を確認してください。

<ATルーム>

ATルームは診療所に隣接し、日本体育協会公認アスレチックトレーナー資格保有教員、専門スタッフ、および学生アスレチックトレーナーによって構成されています。ここでは本学診療所および外部の医療機関と連携の上、スポーツ傷害を負った学生アスリートに対して、早期に安全に競技復帰することを目的としたアスレチックリハビリテーションプログラムの提供を行っています。また傷害予防を目的としたセルフコンディショニングや再発予防を目的としたトレーニング指導も行っています。

開室時間

- 月曜日～金曜日 14:00～20:00
- 土曜日 10:00～14:00

※日程、時間によっては使用できない場合もありますのでATルームにて予定を確認してください。

(4) スポーツ栄養サポート

クラブの部長、監督の申請によって、各クラブ個別に栄養指導などを受けることができます。これまで①女子バスケットボール部寮の献立作成(寮の人数27人。作成した献立数:主菜(丼・麺含む)62種、副菜75種。その他に食事量の目安となる掲示物を作成)②水上競技部1年生対象のセミナー(タイトル:アスリートの食事～基本～。参加者約15人)③図書館企画のセミナー(タイトル:意外に悪くない食事から考えるアスリートの食事。参加者44人)などが行われています。なお日程によっては対応できない場合もありますのでスポーツ局担当に確認してください。

3 キャリア

(1) キャリア支援

アスリートとしてのアスリートライフ(パフォーマンスやトレーニング)に必要な環境を確保しながら、将来に向けたキャリア形成に必要な「教育」や「社会性発達」、「自己開発」の醸成を目的とします。キャリアデザイン(授業)やイベントをはじめとしたキャリア教育の充実を図るとともに、キャリア支援センター/教職支援センターが試験対策、面接指導、将来の進路相談を行います。アスリートが競技力の向上を追求しつつも、一人の人間として広い視野を持ち、自分自身の人生を設計していくための環境整備と支援を幅広く展開します。

<キャリア支援センター>

キャリアセンターでは、学生の希望や適性に応じた進路選択支援のために、各業界・業種の新規開拓、採用試験等に関する情報の収集、サポートを行います。卒業後の人生を充実したものにするために「挑戦することの大切さ」「社会人としてどうあるべきか」「人としてどう生きるか」などを、プログラムを通じて気付かせ、自ら高めていくことを目標としています。

<教職支援センター>

教員を志望する学生に対して、教員免許状取得および教職への就職等の支援を行います。おもな業務内容は、以下の通りです。

- 教員採用試験等、教員採用に関わること
- 教職教育に関する各種研修(教員免許状更新講習を含む)に関すること
- 教育実習に関すること
- 介護等体験に関すること
- 教員免許状一括申請に関すること
- 教育委員会、地域教育機関及び教育現場との連携協力に関すること

(2) ライフスキル向上支援

学業とスポーツの両立のため、有効に時間を使う方法(タイムマネジメント)や問題を解決するためのスキルを身につけるレクチャーなど、アスリート自身の生活全般を充実させる啓発を行います。コミュニケーションスキルなど、良好な人間関係を構築する技術も提供しています。

<入学直前セミナー>

有意義な学生生活を送り、社会に有用な人材へと成長するために、大体大アスリートとしての心構えについて確認する場を提供します。

<アスリートセミナーⅠ(入学後)>

大体大アスリートとしてのスタートを切る1年生前期に、アスリートとして理解しておくべき課題について学ぶ場を提供します。

<アスリートセミナーⅡ・Ⅲ・Ⅳ(各年次)>

学年ごとの役割と課題について学ぶ場を提供します。

大阪体育大学アスリートハンドブック

2018年4月発行(第一版)

[編集発行] 大阪体育大学スポーツ局

〒590-0459 大阪府泉南郡熊取町朝代1番1号